

人材育成支援等に係る本学とベトナムの軌跡

令和3年3月

神奈川県立保健福祉大学

目次

1	ベトナムにまいた一粒の種	1
	中村 丁次 (神奈川県立保健福祉大学・学長)	
2	ハノイ医科大学管理栄養士養成課程での臨床栄養学教育支援	2
	外山 健二 (神奈川県立保健福祉大学・名誉教授)	
3	ハノイ医科大学病院栄養科支援のためのボランティア連携 (臨床栄養)	2
	藤谷 朝実 (栄養学科・准教授)	
4	ハノイ医科大学病院栄養科支援のためのボランティア連携 (食品衛生)	3
	向井 友花 (栄養学科・准教授)	
5	ハノイ医科大学栄養学科卒業生が本学大学院保健福祉学研究科へ	4
	向井 友花 (保健福祉学研究科・准教授)	
6	ハノイ医科大学栄養学科卒業生が本学大学院ヘルスイノベーション研究科へ	5
	中島 啓 (ヘルスイノベーション研究科・教授)	
7	ハノイ医科大学栄養医の研修受入れ	6
	五味 郁子 (栄養学科・准教授)	
8	救急医療システムに関するハノイ医科大学との共同研究	7
	中原 慎二 (ヘルスイノベーション研究科・教授)	
	(参考) ハノイ医科大学支援に係る主な取組み	8

1 ベトナムにまいた一粒の種

中村 丁次

(神奈川県立保健福祉大学・学長)

アジア・アフリカ諸国の栄養不良に対して、先進諸国は、経済支援、食糧支援、さらに農業の技術援助等を行っているが、思ったほど成果が上がっていない。開発途上国における経済発展は、社会の経済格差を生み、貧困層の飢餓や栄養失調症を拡大し、富裕層では肥満による慢性疾患を増加させて医療費の増大をもたらしている。加工技術の進歩や輸入食品の増大により、高糖質・高脂肪食品が安価で手に入るようになり、貧困層にも新たな肥満が出現しつつある。

十文字学園女子大学の山本茂教授から、ベトナムのハノイ医科大学に管理栄養士の養成課程を創設するプロジェクトと一緒にやらないかと言う相談があった。平成 26 年 3 月 24 日、ハノイ医科大学、ベトナム国立栄養研究所、神奈川県立保健福祉大学、十文字学園女子大学、日本栄養士会が、管理栄養士課程創設に関する 5 者間協定を結んだ。神奈川県、JICA、味の素株式会社、花王株式会社からも支援を頂いた。専門職の教育、養成、制度作りをパッケージにした、我が国最初の教育輸出であった。ハノイ医科大学での講義は、日本人が英語で授業をし、ベトナム側の教員がベトナム語に翻訳する方法で実施した。

教員を約 30 人派遣した。英語によるテキストの作成や授業は、教員には大きなストレスであったが、学生たちの熱心さと優秀さ、さらに心遣いに感動し、誰一人として不満を言う者はいなかった。授業

が終わると、お礼をしたいと、学生が歌をプレゼントしてくれ、鉛筆で書いた似顔絵をくれた。私の宝物になっている。目を輝かせ、教員の言葉を食い入るように聞く姿は、教育の原点を知るような思いであった。担当した日本人の教員には、ハノイ医科大学から「客員教授」の称号を頂いた。

学部卒業後、国内や海外の大学院へ進学する者、病院や行政へ就職する者など多彩であるが、まだベトナム国内の栄養士に対する理解は不十分で、役割も不明確である。しかし、今後、彼らがベトナムにおいて地域での公衆栄養、病院での給食や臨床栄養管理、学校給食、さらに栄養学研究におけるリーダーとして育っていくことは間違いない。ベトナムにまいた一粒の種が、日本の栄養が歩んで来た道と同じように、芽を出して大きな花を咲かせてくれることを信じている。



平成 26 年、5 者間協定の締結



ハノイ医科大学での授業

2 ハノイ医科大学管理栄養士養成課程での臨床栄養学教育支援

外山 健二

(神奈川県立保健福祉大学・名誉教授)

現在、全世界で大きな健康問題の1つとなっているのが、低栄養の人と過剰栄養に伴う肥満や生活習慣病の人の両方が同一の国内や地域等にみられる栄養障害の二重負荷です（Double Burden Malnutrition：DBM）。この解決には、公衆衛生の面からのアプローチとともに、医療機関で傷病者の栄養状態を的確に判定し、改善すべき栄養上の問題を解決するために、個々人に最適な栄養ケアを実施していくことが重要となっています。その中心的な役割を担うのが管理栄養士です。

平成25年、ハノイ医科大学にベトナム国としては初めての4年制の管理栄養士養成課程が誕生しました。その教育にあたっては、学生へ、傷病者の栄養状態の判定法、食事・栄養補給計画や実施方法、実施後の栄養状態の再評価法や各疾患の最新の栄養・食事療法等に関する知識や技術を総合的に習得させていくことが重要となります。そこで、本学ではハノイ医科大学と「ハノイ医科大学における栄養学教育に関する協定」を締結し、管理栄養士養成課程における臨床栄養学に関する教育支援を行いました。平成27年3月から平成28年9月の間には、延べ20名の教員が現地で栄養アセスメントの方法、栄養ケア立案・計画、経腸栄養・静脈栄養の方法、エビデンスに基づいた栄養・食事療法の実践等について150回の講義・演習を担当しました。実際の症例を提示する

ことやグループワークを取り入れることで授業内容の理解が深まるよう講義を進め、学生や教員の方々から高い評価を得ることができました。実施した講義・演習の資料は、現地の先生方に引き継がれることとなり、現在の教育支援に繋がっています。



管理栄養士課程の学生



平成29年、ハノイ医科大学で栄養士資格を取得した卒業生が誕生

3 ハノイ医科大学病院栄養科支援のためのボランティア連携（臨床栄養）

藤谷 朝実（栄養学科・准教授）

平成24年に始まる本学教員のハノイ医科大学栄養学科支援は、平成29年8月に初めての卒業生を誕生させ、ベトナムにおける栄養士教育の幕開けとなる重要な役割を担うことになりました。さらに本学では、JICAの協力を得て、卒業した栄養士の臨床での活動を支援することを

目的に、平成 29 年 8 月より 3 年間の予定で短期ボランティアとして教員をハノイ医科大学病院に派遣し、臨床における実務者教育を行いました。

大学が夏休み、春休みで授業がない期間を使って令和元年夏まで 5 回、延べ 8 名の教員が延べ 130 日間 JICA 短期ボランティアとしてハノイに赴きました。この間に行った主な活動は、ハノイ医科大学病院の病棟での患者個人における栄養ケア計画に対する助言や提言、患者給食運営に関する助言、スタッフに対する衛生教育などのほか、栄養や食品衛生のトピックスに関わる講演会などです。

ハノイ医科大学病院での 1 日は、朝 8 時前から栄養部の部長・副部長のほか、栄養医、研修医、医学部修士生、栄養学部の学生の総勢約 15、6 名が出席して実施される栄養部内のカンファレンスに出席することから始まります。その後、栄養医や研修医とともに病棟で患者個別の栄養ケアの実務となります。外科病棟や ICU 病棟では栄養補給の困難事例も多く、特に ICU では栄養ケアに関する助言を毎日求められました。このように患者個人々の栄養ケアのニーズは非常に高く、また助言は主治医によって実践され、翌日栄養医とともに経過観察をし、必要に応じて栄養計画の変更をする。栄養ケアの基本を繰り返すことで、結果としてハノイ医科大学病院での栄養ケアの基本的な方法の定着に繋がったと考えています。

臨床での栄養ケアは、理論や知識のみでは実践に結び付いていきません。若き栄養医たちが、臨床での栄養ケアの実践に自信をもって取り組むことによって、

医療の一環としての栄養ケアの推進になるとともに、共に行動した栄養医が今後の栄養士たちへの実践教育の担い手となり、理論・知識と実践が融合した栄養ケアの発展へと繋がっていくと考えています。



栄養医による栄養ケアの記録



栄養士 1 期生が栄養医へ報告・相談

4 ハノイ医科大学病院栄養科支援のためのボランティア連携（食品衛生）

向井 友花（栄養学科・准教授）

JICA 短期ボランティアとしての本学のハノイ医科大学病院栄養科支援の一環で、私は「食品衛生」という指導職種の立場から、主に病院給食施設の衛生改善のための活動に携わりました。入院患者への提供が未だ不十分であるベトナムの病院給食について、衛生状態や衛生管理状況の実態調査のために、調理施設内の衛生検査、衛生管理体制の聞き取りと見学、食材

や調理済み食品の微生物検査や化学的汚染の検査等を実施し、報告や改善のための助言を行いました。

活動を通して、ベトナムと日本の食品衛生に関する意識の違いに若干戸惑いつつも、実態調査の結果を病院の栄養医・栄養士に報告し、調理スタッフの協力を得てすぐに取り組むことができる行動と、中長期的な改善が必要な点を提案しました。私の活動は約1年のインターバルにおいて約2カ月（平成30年、令和元年）の現地滞在でしたが、その1年の間に、調理スタッフの身だしなみ改善、施設内の調理区域の区別、衛生管理チェックシートの導入など、ソフト面での改善が進んだように見受けられました。病院の熱心な栄養部スタッフの努力により、できることから少しずつ導入されつつあることを感じました。

一方で長期的には、食品衛生向上のための手段は他から強制されるものではなく、ベトナムの人々がその意味と原理を理解し方法を主体的に考えて実行できるようになって初めて、ベトナムにおける食品衛生の向上という目標が達成されるものと考えます。そのためには、幅広く食の安全性・食品衛生に関する知識を有し、指導できる専門職が必要です。ハノイ医科大学の卒業生のようなベトナムで専門教育を受けた栄養士が、ベトナム全土で栄養のみならず衛生についても指導的立場として活動することが期待されます。



病院給食の調理スタッフに対する衛生教育



現地のハノイ医科大学栄養学科の学生さんの協力のもと食材の残留農薬検査を実施

5 ハノイ医科大学栄養学科卒業生が本学大学院保健福祉学研究科へ

向井 友花（保健福祉学研究科・准教授）

平成30年、花王株式会社の寄付金を原資として「神奈川県立保健福祉大学花王衛生奨学基金」が創設されました。花王株式会社によるベトナムにおける衛生管理向上の取組みの一環として、清潔・衛生定着のキーパーソンとなれる人材の育成を目的とした留学生支援制度です。これを活用し、ハノイ医科大学栄養学科1期卒業生の Nguyen Thi Quynh Chi（グエン・チィ・クン・チィ）さんが本学の大学院保健福祉学研究科で栄養学修士の学位を取得しました。日本での初めての生活に戸惑いながらも（特に日本語学校への満員

電車が辛かった！と本人談)、日本でできた多くの友達や関わった先生方に支えられて、熱心に栄養学・食品衛生学の学修や研究に励みました。

修士論文では、ベトナムの病院における入院患者の給食の栄養と衛生状態の向上に向けた提言を行うため、ベトナムと日本の食品衛生制度・行政を比較した上で、実地調査としてベトナムの病院の給食施設の微生物検査を実施し、日本の病院との比較を行いました。その一部は、国際誌「Journal of Food Safety」に掲載されています。DOI: 10.1111/jfs.12827

チィさんは令和2年3月に大学院を修了後、ベトナムに帰国してハノイにある保健医療系大学の講師として務めています。『日本で得た新しい知識や経験を、ベトナムの医学生への指導・訓練の過程やベトナムにおける栄養のさらなる発展に大いに役立てたいと思っています。私の留学を支援してくださった皆さま、そして日本で出会ったすべての方々にとっても感謝しております。』

令和3年2月現在、2人目の奨学生として Dang Thi Thu Hang (ダン・チィ・トゥ・ハン) さんが大学院保健福祉学研究科で学んでいます。ハンさんの来日と時を同じくしてコロナ禍が始まり、オンラインでの講義など予想もしていなかった留学生活ですが、それでも明るく前向きに、積極的に学修や研究に取り組んでいます。

ハンさんは、日本の臨床栄養と食品衛生をしっかり学び取り、その知識と経験をベトナムに持ち帰って自身の臨床活動に早速活かしていきたいという強く明確な意志を持っています。このように意欲

のある留学生が日本での体験・学び・人間関係・経験を得て大きく成長し、将来はベトナムの栄養学を牽引する存在になってくれることを大いに期待しています。また、ベトナム留学生を支援し研究指導する立場として、その一助となれることを光栄に思います。



日越の病院給食施設の衛生状態の比較研究を行った Nguyen Thi Quynh Chi (グエン・チィ・クン・チィ) さん

6 ハノイ医科大学栄養学科卒業生が本学大学院ヘルスイノベーション研究科へ 中島 啓

(ヘルスイノベーション研究科・教授)

Tran Quyen An (チャン・グエン・アン) さんは、令和元年度のヘルスイノベーション研究科第1期生です。ベトナムハノイ医科大学栄養学科を卒業した後、ベトナムで栄養士として勤務しており、その経験の中で、増加する糖尿病に関心が出てきたということです。私が糖尿病などの代謝疾患の研究をしていることもあり、研究指導を担当しました。

アンさんは、個々の糖尿病患者さんのデータを見てきましたが、大勢のデータを一度に見たことがありませんでした。そこで、神奈川県の特健診データを用いて、大規模保健医療データの解析を始

めました。その結果、糖尿病のなりやすさに関する新たな知見を見出し、現在、修士論文を作成中です。

アンさんとの会話とメールはすべて英語でしたが、堪能であったため意思疎通や研究指導において問題になったことはありませんでした。つまり、日本語での読み書きや会話ができなくても、研究は十分に出来るということをアンさんは証明してくれました。ただ、統計解析ソフトが日本語表記であり、様々な書類も日本語表記が多かったため苦労したようです。

また、多くの先生方からご尽力を頂き、神奈川県内の病院における実習も経験できました。日本とベトナムの病院における様々な相違点を学べたようです。

留学生の受入れ体制には十分でないところがまだありますが、アンさんのような留学生が今後も多く本学に来られることを期待しております。

7 ハノイ医科大学栄養医の研修受入れ

五味 郁子（栄養学科・准教授）

神奈川県政策研修員事業として、本学栄養学科では、栄養ケア・マネジメント研修コースについて、4名の研修生を受け入れてきました。平成27年度 Nguyen Thi Huong Lan（グエン・チ・ホンラン）さん、29年度 Nguyen Thuy Linh（グエン・スイ・リン）さん、30年度 Nguyen Quang Dung（グエン・クアン・ドゥン）さん、令和元年度 Nguyen Thi Thu Lieu（グエン・シ・ス・リュウ）さん、4名いずれの方もハノイ医科大学で管理栄養士教育に従事する栄養医でした。

約2か月間の研修プログラムは、医療

機関の給食システム、専門病院の栄養管理システム、介護保険施設の栄養管理システム、在宅・地域包括ケアシステム、小学校・保育所給食、保健所における乳幼児健診、国立健康・栄養研究所や厚生労働省における栄養施策など、実地研修を主とし、保健・医療・福祉における栄養関連業務を広く・深く知ることができるようコーディネートしました。単純に、訪問先で概要説明・レクチャーを受けて、現場を見るだけでなく、日本とベトナムでは国民の健康課題や制度が異なることを踏まえたディスカッションが熱心に交わされ、栄養管理の仕組みの意義や、導入するための方策を知ろうとする姿が印象的でした。

2か月間の研修期間を経て、本学の担当者とハノイ医科大学からの研修生たちとの親交も深まり、本学とハノイ医科大学との連携を推進する要であったと言えます。4名の方々は、研修終了後、ハノイさらにベトナム国において、特に医療における栄養管理体制の構築において中心的な役割を担っています。この場を借りて、実地研修を快く受けてくださった関係各所、管理栄養士をはじめ栄養関係者に感謝申し上げます。



令和元年度政策研修員 Nguyen Thi Thu Lieu（グエン・シ・ス・リュウ）さん
（本学理事長、学長、副学長と）



平成 30 年度政策研修員 Nguyen Quang
Dung (グエン・クアン・ダウン) さん
(厚生労働省にて清野栄養指導室長、
塩澤室長補佐と)

8 救急医療システムに関するハノイ医科 大学との共同研究

中原 慎二

(ヘルスイノベーション研究科・教授)

平成 28 年度からハノイ医科大学病院
救急部集中治療部の Hoang Bui Hai (ホ
アン・ブイ・ハイ) 部長と、ベトナムの救
急医療に関する調査研究を実施していま
す。これまでに、ハノイ市内の院外心肺停
止患者の病院への搬送状況（目撃者によ
る蘇生実施、搬送手段、予後など）、歯科
クリニックのスタッフへの心肺蘇生訓練
(写真 1) などについて報告しました。

令和元年度からは、タンホア州の救急
医療システムを改善して、ベトナムに適
した救急医療システムモデルの構築プロ
ジェクトを始めました。現在、ベトナムで
はフランスに倣ったシステム（医師、看護
師が救急車で現場に行き医療を行う）を
用いていますが、都市部を除き全く機能
していません。そこで、タイに倣ったシス
テム（指令センター設置、病院のネットワ
ーク化、ボランティアの活用）をタンホア

州に導入する計画を策定しています。

令和元年 8 月にはホアン部長と、タン
ホア総合病院の Le Van Cuong (レ・バン・
クオン) 副院長とともに、タイ、コンケン
州の救急医療システムを視察しました。

(写真 2、3)

今後、タンホア州の救急医療の改善状
況を評価して報告する予定です。タンホ
ア州のシステムが、タンホア・モデルとし
てベトナム全国の救急医療をリードして
いくことになるはずであると考えていま
す。



写真 1 歯科クリニックのスタッフに
心肺蘇生の講習を行う



写真 2 コンケン州の村でヘルスボラ
ンティアから院外心肺停止患者に対し
て行った処置について話を聞く



写真 3 郡病院の救急室を視察

(参考) ハノイ医科大学支援に係る主な取組み

時期	内容
平成 24 年 10 月	ハノイ医科大学に栄養学部開設に向けた指導者養成講座（味の素による寄付講座）を開設
平成 25 年 10 月	ハノイ医科大学にベトナム初の栄養学科開設
平成 26 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ハノイ医科大学における栄養学教育に関する協定を締結 （県立保健福祉大学、十文字学園女子大学、日本栄養士会、ハノイ医科大学、ベトナム国立栄養研究所） ・学術・教育交流に関する協定を締結 （県立保健福祉大学、ハノイ医科大学、ベトナム国立栄養研究所）
平成 27 年 10 月	ベトナム政府により栄養士の地位を定める規程（ジョブコード）が承認され、公務員として就職するための素地ができる（11 月施行）
平成 28 年 1 月	ハノイ医科大学栄養医の研修受入れ（県政策研修員）
12 月	ハノイ医科大学病院栄養科支援のためのボランティア連携に関する覚書を締結（県立保健福祉大学、JICA）
平成 29 年 7 月	人材育成の協力に関する覚書を締結（神奈川県、ハノイ医科大学）
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ハノイ医科大学で栄養士資格を取得した卒業生が誕生 ・JICA 短期ボランティアとしてハノイ医科大学へ教員を派遣
平成 30 年 1 月	ハノイ医科大学栄養医の研修受入れ（県政策研修員）
3 月	JICA 短期ボランティアとしてハノイ医科大学へ教員を派遣
8 月	JICA 短期ボランティアとしてハノイ医科大学へ教員を派遣
9 月	ベトナムの清潔・衛生習慣の定着に向けた覚書を締結（県立保健福祉大学、花王株式会社、ハノイ医科大学）
10 月	ベトナムの清潔・衛生習慣の定着に向けた覚書に基づき、ハノイ医科大学栄養学科卒業生が本学大学院保健福祉学研究科へ入学（2020 年 3 月修了）
平成 31 年 2 月	ハノイ医科大学栄養医の研修受入れ（県政策研修員）
3 月	JICA 短期ボランティアとしてハノイ医科大学へ教員を派遣
4 月	ハノイ医科大学栄養学科卒業生が本学大学院ヘルスイノベーション研究科へ入学（2021 年 3 月修了予定）
令和元年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・学術・教育交流に関する協定を締結 （県立保健福祉大学、セントポール病院） ・JICA 短期ボランティアとしてハノイ医科大学へ教員を派遣

令和2年	1月	ハノイ医科大学栄養医の研修受入れ（県政策研修員）
	4月	ベトナムの清潔・衛生習慣の定着に向けた覚書に基づき、ハノイ医科大学栄養学科卒業生が本学大学院保健福祉学研究科へ入学 (2022年3月修了予定)
	6月	ベトナム栄養士会が設立